

松川浦に出現する魚類

福島県水産試験場相馬支場
平成13～17年度福島県水産試験場事業報告書

1 部門名

水産－その他－その他
分類コード 09-99-99000000

2 担当者

根本芳春

3 要旨

松川浦は、幼稚魚の育成場として重要な役割を持っており、水産試験場では長年にわたり魚類の出現状況を調査してきた。これまで、出現する魚類について、経年的に整理されたことがなかったため、今回は、昭和58年以降の資料について、松川浦に出現する魚種を整理し、また、水産資源として重要な魚類については、その出現状況を明らかにした。

- (1) 本調査では、36科59属67種の魚類が採捕された。これに他の調査で採捕されたものを含めると76種となったが、出現頻度や個体数から、一般的に松川浦に出現する魚類は、30種前後と考えられた。
- (2) 採捕数が多かった魚類はギンポ類、イシガレイ、メバル、ハゼ類、ネズツポ類、マコガレイ、アイナメなどであり、水産上重要な魚種や遊漁の対象種がほとんどであった。
- (3) 出現魚種の多くは0歳魚と考えられる幼稚魚であり、CPUEや全長組成の推移から、それらは概ね春～秋季にかけて松川浦で成育し、秋以降外海へ移動するものと推測された。
- (4) 外海への移動には、水温の低下や餌料生物の季節的減少が関係していると推測された。
- (5) 魚類相は松川浦の湾口部からの湾奥へかけて変化しており、底質環境等によって、魚類相が違うことが示唆された。また、魚類の採捕数から松川浦と外海を比較した結果、松川浦の生産性の高さが示された。

4 その他の資料等

なし